

新城新蔵博士

山本一清

新城新蔵博士は明治五年〔一八七二年〕八月二〇日に福島県の会津若松市で生れ、同二八年〔一八九五年〕七月東京帝国大学（理科大学物理学科）を卒業した。それから数年間、東京で陸軍砲工学校教官を勤めたが、明治三三年〔一九〇〇年〕新しい京都帝国大学の理工科大学助教授に任命され、物理学教室に勤務した。博士は永く田中館愛橘、長岡半太郎両博士の指導下に、文部省測地学委員会の事業の一部として、我国各地の重力ならびに地磁気の観測を行った。明治三八年〔一九〇五年〕、文部省留学生としてドイツに出張し、主としてゲッチンゲン大学で地球物理学を学んだが、その間同大学の天文学教授であり、また天文台長であったカール・シュワルツシルド博士の感化を受けて天文学に興味をもつにいたり、明治四〇年〔一九〇七年〕帰朝するに際し、ゲッチンゲン大学のアムブロン教授の指導するザルトリウス会社の製品中最大型最優秀なる口径一八センチのツァイス玉の赤道儀その他の諸器械を注文購入した。これらの器械は、一九一〇年ハレー彗星の出現の機に京都帝国大学の構内の四メートルドーム内に据え付けられ、ここに京都大学天文台が設けられた。博士は明治四〇年〔一九〇七年〕、京都帝国大学総長の推薦により理学博士の学位を授けられ、同大学教授に任ぜられた。なおまた、依然氏は文部省測地学委員として、毎年国内各地に出張して重力および重力偏差の観測研究を行った。

大正七年（一九一八年）に新城博士は京都大学の理学部に「宇宙物理学教室」を創設した。そして、博士は以前から測地学や地球物理学や位置天文学に深い経験をもっていたのだけれど、今回の新教室においては特に天体物理学の研究に重点をおくこととした。昭和四年（一九二九年）、博士は京都帝国大学総長に任ぜられたので、同年四月に、教授職を去った。昭和八年（一九三三年）に博士は大学総長を満期退職し、翌年上海の自然科学研究所の所長に就任し、昭和十三年（一九三八年）八月一日死去するまで、その職にあった。

新城博士は、天文学研究の初期の頃、緯度変化の若干の異常現象に関心をもち、その頃公表した幾つかの研究論文においては、「木村項」を解説するため、大気による天文屈折の局地的な変異によるものとして、巧妙な理論を展開した。その後、幾ほども無く、博士は流星現象の中に、その宇宙開闢論かいびやく的な意義を認めて、若干の論文を発表し、ついにはこれを天体進化の一新論に発展せしめて、遊星界や恒星界の殆んどあらゆる天体をその推論中にとり入れるに至った。博士の研究上の諸論文の大部分は一九二〇〜一九二八年中の京都大学の理学部記要、日本数学物理学会誌、または学術研究会議の天文学地球物理学輯報に印刷されている。なお、一方において、博士は大正年代の初期の頃から、気の向くがままに古代のシナにおける天文学の歴史の研究に興味を起し、年と共にこの方面の研究もいよいよ重要さを加え、その晩年の十余年間に独創的な論説をおびただしく公表した。博士が上海において自然科学研究所長たる間にも、その研究所をめぐる地域において複雑な国際情勢や軍事の緊張した雰囲気において、なおシナ天文学の歴史を研究し続けた。かようにして、博士は最近年中この種の問題に関する最高権威者の一人であった。博士の天文史研究の諸文献はほとんどみな日本語で書かれてあるため、欧米の学界に充分知られていないのは遺憾である。

昭和十三年（一九三八年）七月二二日、博士は軍の占領下にあった南京城内に出張し、その他の図書館に

輯藏されてあつた豊富な学的文献の詳密な研究に着手しようとしたのであつたが、三日後に消化器病に冒され、約一週間の後にその地の病院で亡くなったのであつた。享年六五才に近かつた。

筆者は、一九一〇～一九二二年中、京都大学に在学中親しく博士の指導を受けた学生の一人であつたし、またその後一九二九年までは博士の部下の一職員であつたが、その年博士が大学総長に就任された後を継いで、大学天文台を主裁した。博士の死去のニュースを筆者はストックホルムにおける第六回国際天文同盟総会に出席中受けた。多くの友人たちの薦めと励ましにより、ここに博士追悼の一文を認めたのであつた。

- 『四十八人の天文学家』（一九五九年六月号、恒星社厚生閣）所収。
- 収録にあたり旧字は新字に、旧かなは新かなに改めたが、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- カタカナ書きの人名・地名については、通行の表記にあらためた。
- 「」は編者の註である。
- PDF化にはL^AT_EX_{2 ϵ} でタイプセッティングを行い、dvipdfmxを使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。